

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「今は昔？」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「ほめたたえよ、主イスラエルの神を。神はその民を訪れてこれを解放し わたしたちのために力強い救いを。僕ダビデの家に建てられた」(祈禱書「ザカリアの賛歌」より、ルカ1:68-69)

教会を終えて降臨節を迎え、一足先に新しい一年を歩み始め、私たちの意識を常に新しくしてくださるイエスさまの誕生を祝う準備の時期を過ごすにあたって、先達の言葉をご紹介しますと思います。

1983年の第38総会で、日本聖公会祈禱書(1959年版)から「天皇」の字句と「天皇のための祈り」「皇室のための祈り」を削除する議案が、部落差別問題委員会から提出されたことがありました。その議論の中で、ある総会代議員が「娘を部落の人のところへ嫁にやることになれば躊躇する。」という内容の部落差別発言をしました。他の議員から指摘を受けて、議事録から自分の発言の削除を願い、議場もそれを承認してしまいました。この議案はその総会では否決されますが、3年後の第39総会に再提出され、可決されています。

また、先の議論の中で、別の代議員が、「天皇陛下に対する祈りを削除しても、部落民の痛みには役立たないだろう。自分たちには日本に福音を伝えるという大きな使命が与えられている。天皇陛下の祈りを削除するなら異教キリスト教を知らない日本人に多くのつまずきを与え、福音宣教の妨げになることを心配する」という内容の発言もありました。

そして今度は、「天皇の問題とか部落民の問題に無関心だったが、差別された100万同朋、沖縄県民の一人として発言せざるをえない。虐げられた者は耐えることによって強くなるが、この総会の議論を聞いて、今なぜ日本聖公会の教勢が伸びないのか良く分かった。弱き者の心を知らない、声なき者の声を聞く耳を持たない人があまりにも多い。権威のために祈るが、弱い者のために祈ることを知らぬ聖公会はこれからも伸びません。天皇のために祈ることが、ある人々にとって、もっと惨めな痛い思いとなるなら、この際私たちは、その一匹の弱い羊の

□会議・プログラム等予定

(11月25日以降)

11月

- 26日(月)～29日(木) 日韓協働合同会議・フィールドワーク〔釜山〕
- 29日(木)～30日(金) 祈禱書改正委員会作業部会〔京都〕

12月

- 3日(月) 原発のない世界を求める国際協議会実行委員会〔管区事務所〕
- 4日(火) 常議員会〔管区事務所〕
- 4日(火)～5日(水) 各教区人権問題担当者会〔バルナバホール・浅草〕
- 5日(水) 人権問題担当者会〔浅草聖ヨハネ教会〕
- 6日(木) 文書保管委員会〔管区事務所〕
- 7日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔立教〕
- 10日(月) 主教会タスクフォース会議〔管区事務所〕
- 17日(月) 日韓協働委員会〔管区事務所〕
- 19日(水) 法憲法規委員会〔管区事務所〕
- 26日(水) 女性の地位委員会(UNC SW 63) 打ち合わせ〔管区事務所〕
- 28日(金) 管区事務所仕事納め

2019年1月

- 7日(月) 原発のない世界を求める国際協議会実行委員会〔管区事務所〕
- 8日(火) 管区事務所仕事始め
- 9日(水) 女性の聖職位に関わる委員会〔管区事務所〕
- 13日(日)～14日(月) 各教区青年担当者の集い〔名古屋学生青年センター〕
- 14日(月) 臨時主教会〔香蘭〕
- 21日(月) ウィリアムズ主教記念基金基金委員会〔立教〕
- 22日(火)～26日(土) IALC(聖公会国際礼拝協議会)〔香港〕
- 28日(月)～29日(火) 各教区正義と平和担当者の集い・公開学習会〔京都〕

(次頁へ続く)

☎ 管区事務所の冬休み 12月31日(月)～1月7日(月) 管区事務所業務は休業です。よろしくお願いたします。

ために、その弱い者の立場に立って考えましょう。そういう人の立場に、もっと自らが入っていくような、そういう信仰者になりたいと思う。率直な気持ちから、天皇のために祈らなくていいと思う。「天皇のための祈り」を削除しても痛くも痒くもない。しかし、それで聖公会が変わる。どう変わるか、聖公会はエリート集団じゃない。庶民のための信仰の組織で、そういう教えをもっと底辺の人々に広めてゆく力がある。そういう働きをするという認識を持った方がよいのではないか。」という内容の発言が続きました。

詳しくは総括報告書が出ていますのでお読みいただければと思いますが、今の私たちの意識はどこに向いているのでしょうか。マイノリティの人権に敏感でいるのでしょうか。自分の都合を優先して見て見ぬふりをしていないのでしょうか。35年前のこの議論を読みながら、露骨な差別発言こそ少なくなっているとは思いますが、他者の痛みへの無関心や人を蔑む無意識さがないかと自問させられます。

(前頁より)

31日(木) 主事会議〔管区事務所〕

<関係諸団体会議・他>

11月30日(金)～12月1日(土) 女性の司祭按手20年リトリート〔ナザレ修女会〕

12月1日(土) 女性の司祭按手20年感謝礼拝〔聖アンデレ主教座聖堂〕

11日(火) 日本キリスト教連合会常任委員会〔早稲田〕

2019年

1月14日(月) 東京教区主教按手・就任式〔香蘭女学校礼拝堂〕

20日(日) NCC・カトリック一致祈祷集会〔カトリック小金井教会〕

24日(木) カルト問題キリスト教連絡会〔市ヶ谷〕

24日(木)～25日(金) 外キ教全国協議会・集会〔広島〕

31日(木) マイノリティ宣教センター運営委員会〔早稲田〕

□主事会議

第64(定期) 総会期第2回 2018年11月19日(月)

<主な報告・協議>

- 2019年度「大斎克己献金国内伝道プロジェクト」奉獻先について、選定の内定を行わない、常議員会に決定をはかることとした。
- 緊急災害援助について、インドネシア・スラウェシ島地震被害支援に30万円、台湾聖公会台湾東部地震復興支援に寄せられた献金に加算し30万円を緊急災害援助資金から支出し送金することを追認した。
- 日本聖公会研修支援資金からの支出について、東アジア礼拝ネットワーク(追認)、女性の司祭按手20年記念プログラムにそれぞれ20万円ずつ、ハラスメント防止・対策の研修会(2019年3月21日～23日)に60万円を支出することを承認した。
- 2018年度収支予想および2019年度収支予想について、収支予想に合わせて補正を行わない、常議員会にはかることとした。

次回以降の会議: 2019年1月31日(木)、4月8日(月)

□各教区

北海道

- ・聖職按手式 2018年11月22日(木)18時半 北海道教区主教座聖堂(札幌キリスト教会) 説教: 司祭 ヨハネ池田 亨 式典長: 司祭 サムエル吉野暁生 執事按手志願者: 聖職候補生 エリザベツ阿部恵子、聖職候補生 ノア上平 更
- ・2018年10月1日発行公示内容変更: 教区会開始時刻 2018年11月22日(木) 17時→18時半

北関東

- ・聖職按手式 2018年12月22日(降臨節第3主日後土曜日/冬期聖職按手節) 10時半前橋聖マッテア教会 説教: 司祭 パウロ 矢萩栄司 式典長: 司祭 エレミヤ・パウロ木村直樹 司祭按手志願者: 執事 ルカ平岡康弘

* *

† 逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ステパノ伊藤信義(京都・退職) 2018年11月10日(土) 逝去(85歳)

《人事》

東北

- 執事 アタナシウス佐々木康一郎 2018年11月13日付 願いによって退職を許可する。
 仙台基督教会牧師補の任を解く。
- 司祭 ドミニコ李 賛熙 2018年12月1日付 大韓聖公会大田教区から日本聖公会東北教区への移籍を認める。

東京

- 司祭 ヨハネ山口千壽 2018年10月17日付 東京聖三一教会嘱託を委嘱する。但し、期限を2019年3月31日とする。

横浜

- 司祭 ステパノ岡野保信 2018年10月17日付 沼津聖ヨハネ教会管理牧師の任を解く。
- 司祭 パウロ窪田真人 2018年10月17日付 沼津聖ヨハネ教会副牧師の任を解く。
- 2018年10月18日付 沼津聖ヨハネ教会牧師に任命する。

京都

- < 信徒奉事者許可 > 2018年12月1日付
 (富山聖マリア教会) ピリポ廣瀬康夫(任期1年)

神戸

- 司祭 ペテロ中原康貴 2018年12月31日付 神戸聖ミカエル教会副牧師の任を解く。
 2019年1月1日付 神戸昇天教会管理牧師を委嘱する。

新翻訳聖書の「試用」について

10月9日～11日に長崎で行なわれました、第232回(定期) 主教会において、今年12月初旬発売予定の新翻訳聖書「聖書協会共同訳」の礼拝での「試用」を認めることになりました。

公祷などにおける使用については、法規第171条および別表2に定められていますので、総会の決議が必要で、日課表なども整えていく必要がありますが、主教会としては、試みに用いることを認めることといたしましたのでお知らせいたします。

試用されてみての意見や感想は、各教区主教や管区事務所、礼拝委員会までお知らせいただければ幸いです。

日本聖公会 主教会

□代祷表 2019年について

Anglican CommunionのHPに例年10月下旬頃アップロードされるACP(全聖公会代祷表)は、2018年11月18日までアップロード準備中でした。そのため、2019年代祷表和訳1月・2月は『管区事務所だより12月号』の同封物といたします。ご理解のほどよろしく願いいたします。

管区事務所

📖 聖公会の出版物案内

- ・『日本聖公会要覧』(第64総会期)
2018年10月1日付発行 頒価1,000円+税
 - ・『大斎節中の礼拝』(第7刷)
2017年10月5日付発行 頒価340円+税
 - ・『おいで子どもたち』
2016年10月24日付発行 頒価700円+税
- お求めは聖公書店(04-2900-2771)、またはお近くのキリスト教書店をお願いいたします。

管区事務所編集

好評発売中!

聖公会手帳 2019

- ・日記と年鑑を兼ねた便利性!
- ・教会暦・日課表を完全収録!
- ・教会・伝道所と関連施設が、直ぐわかる
- ・紙質を軽量化して使いやすさを追求!

○大型判 2,200円 / 通常判 1,200円 (税込)

申し込みは聖公書店(TEL 04-2900-2771)、またはお近くの書店まで。

「もう一人の主人公」

クリスマス・メッセージ

日本聖公会首席主教 北海道教区主教 ナタナエル 植松 誠

日本ではあまり知られていなかったかもしれませんが、2007年に公開された、キャサリン・ハードウィック監督の「マリア」という映画があります。イエス誕生後、ヘロデ王がベツレヘム周辺の幼子を死に至らしめる場面から始まります。その残虐な映像のあと、物語は1年前に遡り、ナザレの人々の中で、ヨセフとマリアを映し出します。この映画はまさに、キリストの誕生までのヨセフとマリアの旅路の中で、二人がどのように関わりあっていくかを描いているのです。

物語の最初の場面では、ヨセフはマリアに惹かれますが、マリアにはその思いは届いていません。ところが、ヨセフは彼女との結婚をマリアの両親に申し入れ、両親はヨセフと娘マリアを結婚させることにして、それをマリアに告げます。ただし、1年間はそれぞれの実家で住むこと、夫婦になるのはその後であること、という掟が与えられます。ヨセフとの結婚にあまり気の乗らないマリアですが、それを受け入れ、掟に従って家族と共に今まで通り暮らします。

ある日、天使からマリアに受胎告知がなされ、マリアは恐れおののきながらも「お言葉どおり、この身になりますように」と答えます。天使から、親戚の年老いたエリサベトも身籠っていると聞かされ、彼女に会いに行くことを決めます。言葉少ないマリアの表情から、今自分に起きている信じられないことに恐れ

を抱えていることがわかります。ここまでは聖書にある通りの物語ですが、エリサベトの家から帰ってきてから、マリアにとっての苦しみが始まります。身籠っているということを両親に打ち明け、神さまからのお告げを受けたことを話しますが信じてもらえませんが、婚約者であるヨセフも当然受け入れられずに苦しみ、マリアとの別れを考えます。そのヨセフに天使が現れ、怖れずにマリアを迎えるようにと告げます。天使の言葉を信じたヨセフはマリアに会い、マリアの言う受胎告知を信じ、お腹の子どもを自分の子どもとして受け入れると彼女に話します。けれども、二人は掟を破ったということで村の中では蔑まれ、辛い状況の中で夫婦となります。



Blessed are you among women

それからしばらくして、住民登録のため、ベツレヘムに行くことになり、140kmにも及ぶ、長い旅が始まるのです。まだお互いに、特にマリアは心から夫を信じきることもできない中での過酷な旅。それでも、ヨセフはマリアを労わりながら旅を続けます。この映画

の特徴はヨセフを丁寧に描いていることです。聖書の中ではほとんど描かれていないヨセフの姿が、心が、きっとそうだったのだろう・・・と我々が想像する苦難を淡々と受けていく、そのヨセフの姿に光が当てられています。旅の途中で食べ物が少ないと、マリアには多く渡し、自分は全部食べたふりをして半分を隠し、マリアを運ぶロバに与えます。川を渡る途中でロバから落ちて流されるマリアを必死で助けます。その困難の中で、今までヨセフに対して頑なであったマリアが、だんだんとヨセフに心を開いていくのです。大きくなっていくお腹に手をあてて言います。「お前を育ててくれるのは善良で良い人、自分のことより人のことを考えている」・・・と。



And so Joseph went from the town of Nazareth to David's town of Bethlehem

さて、この映画では、旅を通して三つの描写があり、平行線で描かれています。一つはヘロデ王。民を救う救い主が王となって現れるということへの恐れにとらわれ、その話に平常心を失い、王であることに執着し、絶えず恐れて、息子にまで助けを強いるヘロデ王。二つ目は三人の博士たちです。博士たちの旅も平行線で描かれています。ヘロデとは違い、希望を持って、信じる道に進み行きます。そして、三つ目はヨセフとマリア。様々な恐れの中、困難な中にありながらも、「神さま、私たちが助けてください・・・」と祈り叫びながら、それでも神のお告げを胸に、ベツ

レヘムへの困難な道を進みます。ヨセフがマリアの顔を覗き込んで尋ねます「大丈夫?」と。マリアは答えます。「神さまとあなたから力をいただいたから大丈夫」と。

ついにベツレヘムに着いたとき、マリアは産気づき、馬小屋に導かれます。産みの苦しみのなか、ヨセフは泣きながらマリアから赤ん坊を取り上げます。ヨセフにとっては、怖れながらも、まさに自分の子どもとしてイエスを抱きとめた瞬間でした。そこにやってくる喜びに満ちた博士たちと羊飼いたち。一方、ヘロデは恐れの特攻隊に達して、ベツレヘムの幼子たちを殺すようにと命じるのでした。

ヨセフとマリアが幼子を抱いてエジプトに旅立つところで、この映画は終わりますが、「み言葉どおり、この身になりますように」と信じ続けた旅がまたそこから始まるのです。

ヨセフという助け手がどれほどマリアを支えたことか。ヨセフにとって、どれほど大きな葛藤があり、多くの犠牲があったことかは想像できます。そのことを考えるときに、クリスマス物語にヨセフが選ばれたこと、その後、イエスのお父さんとしてイエスと共に過ごし、イエスの人としての成長がヨセフのまなざしの中にあつたことに深い感動を覚えるのです。聖書の中にはあまり描かれていないヨセフの姿ですが、やはりマリアと同じように、心を刺し貫かれる生涯であったのではないかと思います。



聖公会東アジア礼拝ネットワーク設立総会を終えて

— 報告とこれから —

管区礼拝委員 司祭 ダビデ 市原信太郎

10月29日より11月1日まで、聖公会東アジア礼拝ネットワーク(Anglican Liturgical Network in East Asia, ALNEA) 総会が、聖アンデレ主教座聖堂を会場に開催された。実質的な発足総会となる今回は、大韓聖公会3名、香港聖公会4名、フィリピン聖公会2名、日本からは礼拝委員会と祈祷書改正委員会を中心に6名ほどの参加者があった。この他、このネットワークは地理的条件が重要であるため、参加は管区の単位に限定しないことが合意されており、台湾聖公会(米国聖公会第8管区台湾教区)にも参加を呼びかけた。先方からも肯定的な反応があったが、残念ながら今回は都合がつかず参加が得られなかった。

この会は、2009年以来聖公会国際礼拝協議会(International Anglican Liturgical Consultation, IALC)に東アジア各管区(日本、韓国、香港、フィリピン)より参加した4名を中心に、IALC総会毎にアイデアが分かちあわてきたもので、2016年に韓国と香港において「IALC東アジア地域ミーティング(Regional Meeting)」として、分科会のような形で開催されたのが直接的な始まりである。この機会に、東アジアにおいて礼拝の情報交換や研究に資する地域ネットワーク設立の件を各管区に持ち帰り、それぞれの参加意志を確認することとした。翌2017年、韓国での会合に際し、4管区すべてがこのネットワークの設立に同意したことを受け、今回「ALNEA」という一つの団体として発足する運びとなったものである。IALCでは地域ごとの活動を奨励するという方針があるが、実際にこのような形で具体的なネットワークが形成される可能性は、現在のところ東アジアにしかなく、その意味ではこのネットワークの設立自体がアングリ

カン・コミュニオンへの貢献であるとも言える。

過去2回の会合では基調講演などが持たれたこともあるが、基本的には小規模な研究会という形をベースとするという申し合わせがある。しかし今回は、団体としての発足集会的な側面も大きいと、通常よりはきちんとした形式をとることとした。これにあたっては、管区と東京教区より多大なご支援を頂き、また運営費については香港聖公会からも相当額の献金を頂戴したことを記して感謝したい。この他、小生が主日礼拝をお手伝いしている教会でも有志の方々から献金を頂いた。これについても感謝申し上げたい。

会議は初日の開会聖餐式から始まった。吉田雅人主教(礼拝委員会・祈祷書改正委員会委員長兼担当主教)司式のもと、発足者である4名が前に進み出て、設立するこのネットワークの上に祝福を願うところから、この会の歴史が本格的に開始され、歴史的な瞬間ともなった。

それに続き、トマス・マデラ司祭(フィリピン聖公会)による基調講演が行なわれた。マデラ師はこれまでも国際的に活躍してこられた礼拝学者で、間もなく引退を控えていることもあり、師の講演を直接伺う貴重な機会となった。この講演で師が指摘された、東アジア特有のコンテキストとそれを踏まえた礼拝を探索する上での観点、そして課題は、翌日以降の討議の土台となった。

2日目は終日会議に費やされた。香港聖公会による朝の礼拝に続き、各管区よりの参加者の自己紹介と、それぞれの管区の礼拝に関する状況の報告が行なわれ、毎回のことだが非常に有益な情報が得られた。大韓聖公会から、祈祷書改正の具体的な成果物として実際の祈祷

書が各管区に1冊ずつ手渡されたことはありがたいことであった。その後討議に移ったが、一つのテーマについて集中して討議をするというより、基調講演の中の一つの問いかけをもとに、参加者が自由に意見を出し合う中で、さまざまな問題が提起されていくという形で話が進んだ。その中で特に中心となったのは、神学教育における礼拝教育の問題、礼拝における司式者性 (presidency) の問題、信徒への礼拝教育、そして本会のテーマでもある「礼拝的 (liturgical)」であることをどう考えるか、などである。

午後に行なわれた運営会議においては、これからこのネットワークの申し合わせを文章化していくことや、地理的強みを生かして会を毎年行なうこと、次回の開催地などが話し合われた。

3日目の朝の礼拝は大韓聖公会が担当した。この日は、前日の討議をより具体的にすることが話し合われたが、時間的制約もありきちんとした成果物にまとめることはできなかった。ただ、以前から継続的に話し合われているアジアの感謝聖別祷の作成はぜひ進めていこうということになっている。またこの会の常であるが、会議外の時間、特に夜一杯飲みながらの話の中で、アジアの「聖人」カレンダーや代祷表の作成などが提案された。この日の午後は、カトリックの典礼・典礼音楽学者のリッキー・マナロ神父の特別講演もあり、様々な刺激を受けた。夜のシンポジウムは盛会とは言い難かったが、会議の成果を一般に分かちあう一時とはなった。

これまでの香港や韓国での会合の際には、毎回様々な形でのホスピタリティをもって迎えて頂いていることを思いつつ、今回は迎え入れる側として、会議の主催だ

けでなく「おもてなし」を常に心に置いて準備した。初日の受付時に渡す「ウェルカムパック」には、実用的な書類だけでなく、会議のロゴを印刷したミントや菓子類、文房具、それにタンブラーなどを同梱し、日本のボールペンの書き心地が優れていることなど、様々なところでよい反応を得た。また会期中の食事についても、パーティの他、牛丼やカレー、寿司など、様々なバリエーションが好評であった。3日目の昼食を自由行動とし、付近の地図を渡して好きなところで食事をしてもらうという「宝探し」という企画も大いに喜ばれ、これらの準備に汲々としてきた身としては報われた思いがあった。増上寺を解説付で見学する企画は、通訳は大変だったが、個人的にも大変興味深かった。

礼拝学という点で決して進んでいるとは言えない我々は、これから様々な学術的成果を用いつつそれぞれの地域独自の礼拝を築いていくという、学者よりは職人に近い営みを成していくことになるのだろうと思う。このネットワークは、その働きの上で重要な役割を演じることになるであろう。

なお、会議の成果の一部は <https://alnea2018.blogspot.com/p/alnea-2018-tokyo.html> にて公開の予定である。



ネットワーク設立への祝福を願う各管区代表 左から韓国、日本、香港、フィリピン

第6回「韓国社会宣教スタディーツアー」の報告

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一

1984年から始まった日韓聖公会の公式交流のもと、大韓聖公会の社会宣教の学びの旅を続け、今回で6回目を迎えた「韓国社会宣教スタディーツアー」は、10月25日～29日に大韓聖公会大田(テジョン)教区の「分かち合いの家(ナスメジッブ)」の働きに学びました。大韓聖公会では、全聖公会の宣教の5指標(The Five Marks of Mission)をその働きの根幹に据え、「信仰」「奉仕」「共同体」というコンセプトを大切に様々な社会宣教の働きがなされています。

大田教区の分かち合いの家は、1996年に愈楽濬(ユ・ナクジュン)司祭(現・大田教区主教)の働きによって始まりました。現在では、低所得労働者への支援(就業訓練やフードバンクなど)、ホームレス支援(シェルターや自立支援プログラムなど)、短期・中長期青少年支援センター(一時保護、居場所提供、学習・就業支援など)、高齢者福祉など、多才な社会宣教の働きがなされています。

今回の訪問先は、天安(チョナン)市の障がい者総合福祉施設とホームレスシェルター、大田市の短期・中長期青少年支援センター、金堤(キムジェ)市の農村型高齢者福祉施設、金堤教会、大田教区主教座聖堂などでした。

北海道教区から3名、東京教区から2名、スタッフ2名計7名の参加者は、25日夕方に仁川空港で集合し、バスで大田入りしました。26日は大田市の短期青少年支援施設を訪問した後、天安市の障がい者福祉施設とホームレス支援施設を見学。27日は大田市の中長期青少年支援施設、繁華街のYWCAビルの中にあるドロップインセンターを訪問して、国際交流センター主催のフリーマーケットへ。大田市役所裏にある日本軍「慰安婦」少女像の前でお祈りもしました。28日は西大田駅から金堤へ早朝の列車で移動し、金堤教会で聖餐にあずかり、農村型高齢者福祉

施設の見学。再び列車でソウルまで移動し、京都におられた分かち合いの家創設者の一人、イム・ヨンイン司祭と大韓聖公会教務院長のチェ・ジュンギ司祭と夕食を共にし、29日に帰国しました。

大田のドロップインセンターは最長7日間、短期支援センターは1か月～3か月、中期支援センターは3か月～9か月、長期支援センターは9か月～3年と期限を設け、それぞれ市からの委託事業として10～15名定員の規模で運営されています。家庭の様々な事情から家に帰らない青少年(9～24歳)たちの居場所を提供する事業で、児童養護施設に入所するまでは至らない青少年のケア施設です。

ドロップインセンターでは、居場所・シャワー・食事・宿泊・衣類の洗濯・薬・相談を提供して、スマホの充電をしに、あるいは寝る場所を探して、悩みを相談しに、漫画を読みたくと、理由は様々ですが、無理に家へ帰したりせず、子どもたちの生きづらさに寄り添う働きとして運営されていました。短期・中長期の支援施設では、寝る場所と食事を提供しながら、少人数のスタッフがローテーションで生活を共にし、学校に通ったり、仕事に出かけたり、部屋にこもったりとそれぞれのペースで過ごし、様々な専門機関と連携しながら自立の支援を促していますが、保護者との関わりは薄く、課題であるとうかがいました。



ドロップインセンター内部(フリースペース)

「わたしたちの息子は皆、幼いときから大事に育てられた苗木。娘は皆、宮殿の飾りにも似た、色とりどりの彫り物。」(詩編144:12)という聖書の箇所から「ヘッスン(若枝・新芽・苗木)」という標語を掲げて、一人ひとりの青少年の尊厳を大切にしながら寄り添う活動がなされていました。時には、主教座聖堂の旧牧師館を改装した木工の作業場で、大田の野球チームから折れたバットをもらい受けて、それを加工してペンなどの木工細工を制作し、フリーマーケットなどで販売して運営資金を補う活動もされていました。



フリーマーケットでの木工品販売

センター職員の方との話し合い
(中長期支援センター食堂)

天安の障がい者総合福祉施設は、安市で唯一の総合福祉館で、障がい者の人権や社会参画を目指し、デイケアや相談支援、リハビリや日本の福祉作業所のような自立支援プログラムが提供されていました。これも市からの委託事業として大韓聖公会財団(社会宣教のための財団)で運営されています。

金堤の高齢者福祉施設では、農村地域の高齢化を支えるために、デイケアや養護施設、社会福祉的企業(シーツクリーニングなど)の運営などを含む福祉タウンを形成し、そこで働く若い世代の定着にも寄与していました。金堤教会では20名ほどの若い世代の職員と一緒に礼拝を

献げることができました。

また、ここ数年、277キロを10日間かけて青少年と一緒に道を歩くという、ロード・スクール(プログラム)を行なっているとのお話も聞きました。様々な理由で犯罪を起こしてしまった青少年が、スタッフと共に、時には会話をしながら、時には沈黙の内に、ただひたすら歩くことによって、自分自身を知り、過去を省みながら10日間の辛い経験を乗り越えることによって、変化が起こり、生きる自信を取り戻すプログラムだそうです。大田市の裁判所の内規を変更してこのプログラムが認められ、1年間毎月一度いっしょに歩いた先生と面談することによって、犯罪の前科がなくなるのだそうです。大田市の教育委員会の委員もしておられた愈楽濬主教の信頼があってこそ実現した、日本では考えられないプログラムだと思います。これまでにまだ、途中で逃げ出した子はいないとのことでした。

大田教区では、イエスさまが貧しい人々と共に歩まれ道をたどるために、仕事と祈りや黙想を通して、神さまの導きとして貧しさの現実に向かい合う必要がある。神さまがその人々を慰めて丁寧にもてなされたように、私たちも一人ひとりの尊厳を大切にしながら丁寧にもてなす生き方をすることが社会宣教だと位置づけて活動されています。

私たち日本聖公会の社会福祉施設の働きの原点を再確認するような、学びの訪問ができたことを感謝いたします。2年に一度、日韓協働委員会の主催でこのツアーを計画しますので、ぜひ多くの信徒・教役者のみなさまにご参加いただきたいと願っています。

大田教区のみなさまのおもてなしに心から感謝しつつ。



愈楽濬主教とともに(主教座聖堂主教室にて)

2018 SPEA 反人身売買実践者の為のワークショップに参加して

2018年10月30日

カパティラン 理事長 牧野 兼三

概要と背景

このワークショップ (South Pacific and East Asia Anti-human Trafficking Practitioners Workshop) は、東南アジア、および東アジアにおける人身売買を終わらせること、安全な移住を実現することを目的に、聖公会、ローマ・カトリック教会、救世軍のキリスト教3団体を中心となって開催された。10月1日から5日まで35人の参加者がカンボジアの首都プノンペンに集まり、人身売買に携わった経験を共有し、キリスト教団体を含む地元の支援団体を訪問するなどして洞察を得た。参加者は、英国、カンボジア、ミャンマー、マレーシア、サラワク、フィリピン、タイ、そして日本と8か国に及んだ。

カパティランがこの会に参加させて頂いた背景には、現在カパティランが取り組んでいる「海外にルーツを持つ子供たちの支援」が元々は日本に出稼ぎという名の国際人身売買で来日した女性たちをルーツにしていることが大きい。また社会的に「小さきもの」とされている子どもたちが強制労働、児童・未成年ポルノ、サイバーポルノといった現代の人身売買と隣り合わせの危険な状況にあるという点からも参加が必要と判断した。

今回は Anglican Alliance から日本聖公会の植松首座主教宛に届いたワークショップの案内状をカパティランにご紹介いただいた。カパティランにこのような機会を与えられたことを大変光栄に思うのと同時に、この場を借りて皆様に感謝申し上げます。

人身売買とは？

Human Trafficking、日本語では「人身売買」。

この言葉を聞くと日本では、「は!?! 野麦峠? ? ?いつの時代の話ですか?」という反応がほとんどである。

The Global Slavery Indexによれば、2016

年の時点で人身売買の被害者は推定約4,000万人。人身売買は現在の奴隷制度と位置付けられ、世界的に大きな社会問題となっている。実際、ローマ教皇フランシスコは、人身売買を「人道に対する現代の犯罪」と呼び、アングリカン・アライアンスにおいても世界レベルで解決すべき優先事項として提起されている。

(The Global Slavery Index に関する詳しい数字は <https://www.globalslaveryindex.org> をご参照ください。)



人身売買は世界経済の特に生産段階（農業、漁業から工場生産まで）に巧妙に組み込まれている。また近年はインターネットの発達により国や地域を越えたサイバー犯罪化も進んでおり、世界の中では、所得が低く、貧しい地域や国がターゲットとなる。具体的に現代における人身売買とは以下のようなものを指している。

- ・ 強制労働（不法な低賃金の長時間労働）
- ・ 性的搾取の人身売買（売春、児童売春、アダルトビデオ）
- ・ 家庭内奴隷（不法長時間労働）
- ・ 漁業と航海での強制労働（エビ・カニ漁）
- ・ 子供の人身売買（貧困世帯）
- ・ サイバーセックスによる人身売買（インターネットポルノ）

- ・偽装結婚・強制結婚
- ・臓器売買

日本における人身売買

では、人身売買と日本に住む私たちはどう関係するのか。現在、日本で問題となっているのは、直接的な関与と間接的な関与の二種類がある。

直接的な関与は農村や漁村や工場で行なわれている職業研修という名の不当な低賃金労働、成人から児童にまでに及ぶ売春、アダルトビデオ、インターネットポルノなどの性的搾取、そして特にアジアからの移住希望者をターゲットとした偽装結婚・強制結婚といったものである。

一方で見過ごされがちなのが、人身売買によって安価に生産された輸入品を購入し無意識に経済的享受を受けているという、間接的な関与である。

例えば、日本のスーパーで売られる安価で大きなエビは、タイ国における人身売買された労働者が、おおよそ人間らしさからはかけ離れた壮絶な環境で収穫されているという問題がある。例えば、私たちが着ている Cotton のシャツは、カンボジアやインドネシア製が多いが、ファストファッションの有名店での値段は10ドル以下である。一体、サプライチェーンはどうなっているのか？原価はいくらなのか？

ワークショップでは、そうした日常では考えもしない様々なリアリティを、様々な国の様々な立場の皆で話し合うことで、多くの気づきがあった。

教会ができること

「人身売買から逃れた人があなたの教会に来た時には、寛容な心で歓迎してあげてください。なぜなら、教会は彼らにとってすべてのニーズを満たすことができる唯一の場所であり、精神的支援を与えることができるからです。」（フィリピンから中東、そして欧州にメイドとして売買された、元被害者女性）

今回のワークショップの目的は、教会が人身売買に取り組むにあたっての洞察力と専門知識を共有し、国境を越えて東アジアの教会間に反人身売買のネットワークコミュニティを構築すること

であった。

また、5日間のワークショップを通じ、教会が介入していくにあたっての戦略的対応が設計された。他の教会や人たちの経験から学ぶことで、人身売買を終わらせるための全体的な対応の枠組みが議論された。

最後に今回のワークショップで導き出された「人身売買を終わらせるための7つのP」は以下のとおりである。

1. PRAYER (祈り)：すべての反人身売買活動には祈りが必要です
2. Prevention (予防)：人身売買と買い手の需要に対し強い態度をとる
3. Protection (保護)：被害から逃れた人を保護し、二次被害を防止する
4. Prosecution (法的手段)：加害者の告発と証人の保護
5. Policy (政策提言)：効果的な法律と政策の提言、資金提供
6. Partnership (パートナーシップ)：政府、他の信仰団体、警察、市民社会などとの協力
7. Participation (参加)：地域の教会と社会における認知を高め、対応できるようにする。

本稿に関するご質問、カパティランの活動に対するお問い合わせは、カパティラン事務局までお知らせください。 kapatiran.tko@nssk.org



教会の声 / 読者の声

BSAセミナー盛會裡に終了

BSA主催のBSAセミナー「外国人墓地最初の埋葬者と聖公会祈祷文による葬儀」を10月13日(土)に横浜山手聖公会で開催し、無事終了いたしました。

セミナーは、6年ぶりの開催でしたが、50人もの参加申し込みがありました。過去の記録によると大体25人前後でしたから、50人がいかに大きな数字であるかがわかります。

従来は周知手段が会報「VISION」のみでした。今回初めて「管区事務所だより」に掲載していただきましたが、その効果がてきめんに出たと思います。

参加者の3分の1がBSAの会員外であったということからも、それはいえると思います。

ここにセミナーを無事開催できましたことをご報告申し上げますとともに、ご協力とご支援を賜りましたことに心からの感謝とお礼を申し上げます。わたしたちは今後もみなさまに喜ばれる企画を立てて、ご期待に応えるよう努力をして参ります。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2018年10月15日

日本聖公会アンデレ同胞会 (BSA)
理事 吉松英美



セミナーのテキスト(表紙)

「空の鳥、野の花、人の苦勞」

短歌17首 齊藤昭一(退職司祭・仙台)

空の鳥養い給う神なれば 創造の恵み人養うに足る

蒔かず刈らず納めずとも養わる 煩うことなき鳥の自由さ

空の鳥にはるかにまさる人なれど 生きるに難き人の世の日々

命は食物にまさると主イエス 人はパンのみに生きるにあらず

鳥あまた飢えることなく飛翔せり 一日の飛翔一日にて足れり

季節ごと鳥とびかいて花装う 我らは主の御業讃むるなり

野の花の美しき装い短くも ソロモンの栄華にまさるなり

人知れず野の花の色装わるる 神に知らるる命なりせば

枯るるまで今日一日の花咲かせ 咲かせし神を讃むる如くに

野の花にまさる人の命なれど 神からの命知らず生きれり

人々の生きるは衣食にはあらず 生きる目当て主は示し給えり

鳥・花にまさる人の命なれば 生命の木に接ぎて生きよと

初めより神の造りし地に住みて 数多の恵み神賜うなり

勞多き人の生きる日々なれど 一日の苦勞その日にて足れり

働きて生きるは人の苦勞なれど 耐えて望みし先に道あり

病老苦人々受くる試練なれど 主イエスは凡て背負いてゆけり

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.orgprovince/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。